

2024 年 7 月吉日
一般社団法人 日本遺伝性腫瘍学会
理事長 石田秀行
専門医制度小委員会
委員長 隈元謙介

このたび一般社団法人 日本遺伝性腫瘍学会では、2024 年度「遺伝性腫瘍専門医のための E-learning 講座」を開講致します。昨年度より、本学会の専門医制度小委員会を中心にコンテンツの作成を行い、遺伝性腫瘍専門医の新規取得（受験）や更新の際に受講することを必須としています。

日常診療におけるがんゲノム医療への適切な対応や遺伝性腫瘍の診断や治療、とりわけリスク低減手術に対する社会の関心の高まり等から、一般臨床医や基礎研究者を含む医療従事者の遺伝性腫瘍への対応は急務であり、遺伝性腫瘍に精通した人材の育成はきわめて重要です。

本学会では臨床遺伝学と腫瘍学の両面に適切なバランスをもって精通した人材を育成することを目的として、遺伝性腫瘍セミナーの定期的開催、学術集会での教育セッション、学会機関紙「遺伝性腫瘍」等を通じ、遺伝性腫瘍に関する正確・最新の知識の習得と適切なマネージメントに関する情報提供等について、鋭意取り組んで参りました。「遺伝性腫瘍専門医のための E-learning 講座」も、遺伝性腫瘍に精通した医師を育成するためのきわめて重要な事業です。

本学会では日本医療研究開発機構（通称 AMED）臨床ゲノム情報統合データベース整備事業「ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備と我が国の継続的なゲノム医療実施体制の構築」（溝上班）の研究開発分担者として、ゲノム医療関連学会との連携によるデータ登録の加速と人材育成に積極的に取り組んで参りました。その一環として 2021 度は 7 コンテンツ、2022 年度は 4 コンテンツを加えた「遺伝性腫瘍専門医のための E-learning 講座」を開講しました。2023 年度はリニューアルして、過去のコンテンツで好評であった内容を中心に 6 コンテンツを会員限定で配信致しました。今回は遺伝性腫瘍専門医試験作成や更新業務審査を担当している委員から要望が多かった内容から絞り込まれた 6 コンテンツを配信致します。分子遺伝学の基礎から、専門医試験にも必須となる遺伝カウンセリングの技術について、またメジャーな遺伝性腫瘍として遺伝性大腸癌と遺伝性乳癌卵巣癌の最新の知見、さらには「神経線維腫症 I 型（NF1）叢状神経線維腫-悪性末梢神経鞘腫瘍診療の重要性」「遺伝性腎癌の診断と治療」と各分野のエキスパートの先生方に講義していただきました。

ぜひ本講座を受講頂き、遺伝性腫瘍に対する診療・マネージメントの向上、遺伝性専門医取得の知識の確認・整理に役立たせて頂ければ幸いです。